日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

様　式　Ｆ－７－１

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実施状況報告書（研究実施状況報告書）（令和元年度）

機関番号	３２６０４

所属研究機関名称		大妻女子大学
研究代表者	部局	文学部
	職	講師
	氏名	竹部　成崇

１．研究種目名　若手研究　　２．課題番号　19K14356

３．研究課題名　不況の知覚が内集団の範囲を狭めて曖昧成員への攻撃を促進するプロセスの解明

４．補助事業期間　令和元年度～令和３年度

５．研究実績の概要

昨年度は、「不況の知覚は資源欠乏のリスク知覚を介して内集団の範囲を狭めるか」という仮説を検討した。より具体的には、不況の知覚が内集団の広さに及ぼす影響をゼロサム信念（全体の資源は一定であるという信念）が調整するかどうかを検討した。不況の知覚が内集団の範囲を狭めるのは資源欠乏のリスクを知覚をするためだとしたら、ゼロサム信念が低い個人においては、不況の知覚は内集団の範囲を狭めないことが予測された。

実験１では、予測通り、ゼロサム信念が高い個人においてのみ、不況の知覚が内集団の範囲を狭めていた。ただし、昨今の心理学の再現性問題を考慮し、実験２として直接追試を行った。その結果、実験１と同様に仮説と一致するパターンは見られたが、効果量は小さく、統計的には有意ではない結果となった。そのため、実験３として再び直接追試を行った。その結果、今度は、仮説とは異なるパターンとなった。

なお、実験１～３のすべてにおいて、不況の知覚の主効果は確認されなかった。このことは、不況の知覚の操作方法が適切でなかった可能性、内集団の範囲の測定方法が適切でなかった可能性、不況の知覚には内集団の範囲を狭める効果はない可能性を示唆している。

また、別の実験として、実験１～３とは異なる方法で内集団の範囲を測定した実験も行った。しかしここでは、回答の際に予期せぬ心理プロセスが働き、内集団の範囲の指標が信頼性の高いものとならなかった。

なお、一連の研究は中島健一郎氏（広島大学）の協力を得て実施された。

６．キーワード

不況　欠乏　ゼロサム信念　資源　内集団の範囲

７．現在までの進捗状況

区分　（3）やや遅れている。

理由

先行研究で示されていた「不況の知覚が内集団の範囲を狭める」という知見を前提に仮説を立てていたが、そもそも先行研究の知見が再現されなかった。そのため、昨年度の研究結果からは、当初の仮説の正否について判断できない。

【研究代表者・所属研究機関控】

日本学術振興会に紙媒体で提出する必要はありません。

１版

８．今後の研究の推進方策

独立変数の操作方法、従属変数の測定方法等について見直しを進め、昨年度の仮説を再検討する。

９．次年度使用が生じた理由と使用計画

研究成果について国際学会での発表を予定していたが、学務などの事情により発表できなかったことが原因である。

１０．研究発表（令和元年度の研究成果）

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 竹部成崇・中島健一郎
２．発表標題 不況の知覚とゼロサム信念が内集団の広さに及ぼす影響
３．学会等名 日本社会心理学会第60回大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

１１．研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件／うち取得0件）

１２．科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

１３．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

－

１４．備考

－